

# 〇〇さんの、そこ心知りたい!

河野謙



-このコーナーでは、契約者の中で野沢・飯山をメインに事業を行なっている方に向けてインタビューさせてもらっています。お客さま同士が繋がりが合い、地元がより活性化することを目的としています-

カッコいい。

第7回目の今回は飯山・戸狩の「ambis」マスター・福澤龍一さんです。龍一さん、やっぱりカッコいいわ〜。龍一さんの生き様、考え方、ユルさ…。人生の楽しみを広げてくれます。ユルい中にも人生の大切なことを教えてもらった気がします。

仲間とワイワイ楽しみたい時、たまにはちょっとカッコつけて、なんて時に。その日その日で色々な顔が楽しめるバーですよ。なんといってもマスターが最高です。

【インタビューは2020/2/14、「ambis」カウンターにて。楽しいバーの雰囲気とともに楽しみください。】



僕:「よし、始めました。」

龍一さん(以下、龍):「はい笑」

僕:「どういうきっかけで始めたんですか?」

龍:「来たね。笑」  
「えっとね〜。きっかけは前からやっぱりバーをやりたいかったんだけど、やりたいと思いついたきっかけは映画の『カクテル』だね。」

僕:「あ〜。出た!」

龍:「そこですね。で、なぜその『カクテル』かというと、やっぱり高橋歩(自由人)。その人の出した本に影響されている。」

僕:「そうなんですか。それは知らなかった。何歳ぐらいの時に読んだんですか?」

龍:「それはねー、高校生の時。で、それもあって…飲み屋だけじゃないんだけど、店もやりたいというのが漠然とあったから、まあ…料理学校に進んだっていうのもある。あと女の子いそうだから。笑」

僕:「ambisやる前もどこのバーをやってたんですっけ?」

龍:「まずね〜、在学中にスポーツショップにいて…笑 ん?あ、

その前に有名人とかも来る料亭居酒屋にもいたわ。で、卒業した後にまあ、カフェバーっていうか…あの、『スパイス』っていうところにいた。」

(後ろで飲んでるお客さん):「えっとパンティー2つください」

龍:「OK。パンティーね。」 (僕に向けて)「ちょっと面白いよ。へへへ笑」

僕:(そのお客さん達に向けて)「パンティーうまいですか? パンティーが好きなんですか?」

お客さん(美女):「ノーパンティーもありますよ。ふふふ。」

龍:「全部この子たちの先輩が名前つけた笑」

僕:「センスいいっすねえ。」 (みんなで)「ハハハハ〜!」

僕:「これ、元々、龍一さんちの建物だったんですか?」

龍:「元々ね、ウチのものっていうかウチ所有の、まあここもカフェバーみたいな感じだったのかな。で、俺が帰ってくるぐらいの時には、戸狩のシニアクラブっていう…じいちゃん、ばあちゃん



【高橋歩(自由人)】



ん達の待合室みたいな感じになってた。その一個前は、ペンティクトンの孝さんが、おでんバーをやった。」

僕:「ambis になってから何年ぐらい経ったんですか?」

龍:「えーと...2012年。」

僕:「じゃあ...もう8年にもなるんですね。」

龍:「そうだね〜。」

(ぞろぞろお客さんが入ってくる)

龍:「めっちゃカレーの匂いするな笑 これはみんなこの辺の人たち。」

僕:「みんな、ペンティクトンから来たんですか?」

龍:「そうそう。その流れ結構ある。笑」



龍:「それはもう結婚ですね。まあスパイスに1番下っ端で入って...4年で一応店長まで行ったんだよね。その店長の段階で『お前ちょっとライブハウスへ来ないか』と言う話があって、そのライブハウスも確か3年半ぐらいいたと思うんだけど、一番下っ端で入って、店長まで行って、その店長まで行った段階でちょうど今の嫁と出会って。って

感じ。そのタイミングで子ども育てるんだったら...どっちかって言ったら自分が育った田舎がいいなと思って。で、まあその時にはもうこの場所(ambis)が俺の中に構想であって。そうだ、ウチ、あそこあるなと思って。で、帰ったら絶対あっこで店やろうと思って。もともと店出したかったんだけど、長野市でやるって事はまあその時点でこう...諦めたから。どうしても子どもがいたら田舎で育てたいっていうのは俺のこだわりのあるところであって。だったら地元かな?っていう選択肢で、そう考えた瞬間にココ(ambis)がもう思い浮かんで。」

僕:「大体うまくいきそうかなっていうのはあったんですか?」

龍:「いや、全く。ただやりたいっていうだけで、うまく行きたいとかそういうのは無い。全然もう...やりたいからやる。それだけ。笑 まあでもさ、一応冬になればこうやってスキーに来る人たちとかいるから、まあ何とかなるんだろうなって気はしてたけどね。」

(ペンティクトンの孝さんが入ってくる)

孝さん:「おつかれー♪ ねえ謙、不倫保険てないの?」

僕:「いいのあるんすよ。結構高いけど...あ、でも孝さん告知で引っかかちゃうからダメだ 笑」

僕:「では次で。冬の龍一さんの1番ノーマルな1日を教えてください。...あ、じゃあ今日でいいや。どんな感じでした?」

龍:「今日は...ダラダラしてたよ。ふふ。」

僕:「まず何時に起きたんですか?」

龍:「えーとねー。今日は8時ぐらいに起きて 笑 で、何してたっけな...笑 飯食いに行っ



ことをやっているっていう。音楽も好きだったし、それにちなんでじゃあ音楽が好きなんだからライブハウスの空いてる日を使ってイベントやってみなよって言われたりとかして。イベントやりながら給料もらったりね。」

僕:「それは最高ですね!」

龍:「仕事なんだけどやりたい

た嫁と。」

僕:「あ、今日はスキー場はなかったんですね。」

龍:「そう。無かったっていうかまあ、行かなかったんだけどね。でも冬はねえ、やっぱね、大体除雪がある日はほんとに睡眠時間が3時間位で朝起きて、で除雪して(宿とambisの周りで2時間半ぐらいかかるらしい)で、時間が余れば仮眠するか、買い出しへ行って...で、お昼までに全ての準備を整えておいて午後、パトロールへ行って帰ってきて店を開けるみたいな。」

僕:「大丈夫な人なんですか？ 睡眠短くても。」

龍:「ダメ。笑 毎日だとダメだから眠る日をちゃんと取つとかなないとダメ。まあでもさあ、よく言うんだけど、ほんと好きなことしかしてないから。全部好きなことなんだよ。まあ除雪は好きじゃないけれど。笑」(ハハハハハ！)



僕:「あれ？冬は行かないんですって？釣りは。」

龍:「いや、行けたら行くよ。でもまだ今年に入ってからちゃんとしたのは行けてないんだよ。やっぱその、波と風が冬は結構荒れるからさあ日本海は。日本海が荒れるってことは北風が吹いてるんだよね。で、北風が吹くから陸

に向かって波も立つし風も吹く。って事は風が当たって雪が降るってことだから。そう。だから風とか気温とか、寒気とか全部見てるんだけど。いろんなサイトで。だから雪降る日とかわかるもん。この日は雪質がいいよ、とか。全部わかるもん。その通りになる。今日は雪降るけど雪質悪いよとかね。」



僕:「龍一さん色んなものにハマると思うんですけど、今の今でいくと何にハマってるんですか？」

龍:「そりゃ釣りでしょ。笑 え、長いよ？ 俺釣り話すと。笑」

僕:「ここ2年ぐらいですよ。え、どんなきっかけで行くことになったんですか？ 誰かに誘われてとか？」

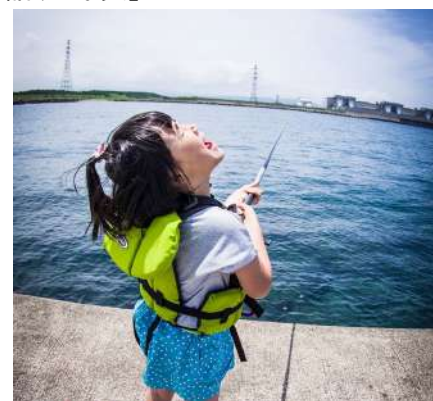
龍:「いや違うんだよ。たまたま、長女とどっか遊び行くかって話になって、たまたまその時親父の釣道具が目に入って。で、釣りでもやっちゃう？みたいになって。ほんとたまたま。で、その時は親父の道具だから餌釣りやっててまあ普通に楽しかったんだけど...その長女と

やっているときに隣でルアーマン達がいっぱいいたわけよ。あいつらはなんだ？って思って。今までルアーっていう概念がなかったから。で、ルアーっていうものをちょっとやってみたいなあって、ただの興味本位で。まあ弟がやってたんだよ。だから弟の竿とか借りたりして。話聞きながらやってたんだけど...まあハマっちゃうよね！笑 なぜルアーフィッシングにハマったかっていうと、餌釣りって待ってる釣りなんだよ。餌を垂らして、待ってる。で、ルアーフィッシングって疑似餌だから、餌となるものに扮したものを投げるわけだよ。**だから時期とかその魚が食ってる時間帯とかそういうものを頭の中に入れて上で、それに合ったルアーを持っていく。で、投げる。要は、知識の答え合わせをしに海に行くんだよ。」**

僕:「お～！名言。龍一さんて、多分そういう推測するの好きですよ。」

龍:「なんかさ～、結局水の中で動いてるのとかさあ、見えないわけよ。100メートル先に投げるから。**だから想像の世界だけでいくっていうのが(面白いんだよ)。**」

(途中割愛) 僕:「じゃあ1番釣って嬉しかった魚はなんですか？」





龍:「え～。そんなのないよ。あの～、どんな魚でもやっぱり答え合わせが的中した時。だからこの時期だったら、こういう場所に、この時間帯に、これを食べる(魚が)。その答え合わせが的中した時。」

僕:「しかも龍一さん、自分でさばけますもんね。」

龍:「そう。だからスキーとかスノーボードも面白いんだけどさ、結局自分だけの世界で終わっちゃうんだけど。釣りってさあ、高級な魚釣ってきたらみんなで共有できるじゃん。一万円の鍋作るからね！今から。みたいな。笑 結構高級魚食ってるよ、うちの家族は。笑」



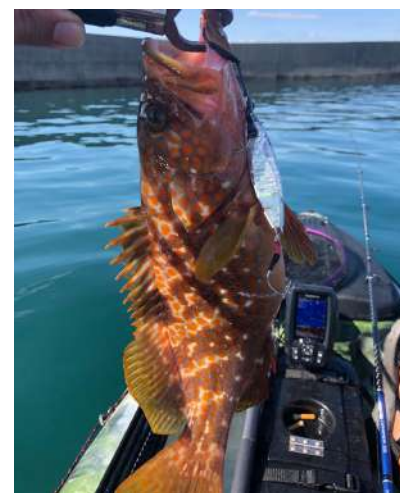
(途中割愛 笑)

「もう、1人で雄叫びあげてたからね。堤防で。笑 アドレナリンめっちゃ出るからね！多分判断力と、動きと、自分じゃ想像できないところだと思うよ。」

僕:「龍一さんにとってバーのロマンってなんですか？」

龍:「おお、また始まったぞ笑(インタビューが)」

「ロマン！？ ...まあその、昔の人は... こう...例えば『ジン・トニック』とか『ジン・フィズ』とか言ってた世代の人たちはやっぱりその自分のステータスっていうか、ここで飲んで『自分がバーで飲んでる。カウンターで飲んでる』っていうことがステータスだったわけ。そういう世代の人たちもちろん、特に冬は来てくれる。で、やっぱり高い酒も飲みたがる。で、例えば自分



の部下と一緒に来たときにカウンターに入ってきて『あれとあれとちょうだい』ってさらっと言えたらカッコいいじゃん。(僕:「あー、わかる!」)そういう世代の人たちはそういうのをステータスとして来てくれる。」

僕:「酒に酔いつつ、自分に酔うってことですね?。」



龍:「そうそう！そういう世代もちろんいるし、こういう子たち(後ろで飲んでた学生たちを見て)はまたちょっと違うよね。まあ安くてもいいんだけど、ワイワイしてる場であたりとか(とりあえずビール！みたいな)のってほんとに今の子たちは無いんだよ。みんな一杯ずつこうやってカクテル頼むとかそんな感じ)だから、若い奴らには『夜は楽しいんだよ』っていうことを提供したいし、年上の人たちにはこう...格好つけて来てもらいたいんだよ。」

僕:「みんなそれぞれ、バーに求めているものが違うんですね。それもなんかまたイイですね。」

龍:「と、思う。まあ俺が何かにこだわっていて『こだわりを見る』っていう感覚も全くなくて、それぞれの楽しみ方で楽しんでもらえたらいいかなって思う。だからロマンというよりはなんていうかなあ...そうい



う感覚っていうか。まあ俺の趣味のものはいっぱいあるんだけど(店の中にいろいろ置いてある。)、その空間の中でそれぞれがおの自由によってもらえたら、良いから。というか俺も一緒になって楽しんでるだけっていうかほんとにそんな感じ。誰かのためにどうしようとかそういうのは全くなくて。」

僕:「龍一さん、やっぱりカッコいいわ~(モテるわけだ!)。」

龍:「『ごめん、そのドリンク持って行って』とか全然あるし。1人でやっているからみんな助けてくれる。むしろそういうのがまた楽しい。」

(学生:「龍一さん、お水ください!」 龍:「うち、1番水が高いけど大丈夫?笑」)



僕:「ちょっとこういうのを企んでいる、なんていうのはありますか?」

龍:「別に特にないんだけど、特にないけど...死ぬまでにやりたいのは、やっぱり南の島じゃないけど、そういうところで店やりたい。浜辺。^^。浜辺でバーをやりたい。」

僕:「まさに『カクテル』じゃないですか!」

龍:「笑。そうなんです。そういうこと笑。あの、屋根がこう、ヤシの葉になっていて(僕:「イイ、イイ!」)やっぱさあ、海辺に行くとそういうバーあるじゃん。そのままサンダルでイン出来てさあ、で、店の壁はなんていうの、ガラガラガラのこう、アミアミのやつでそれだけが店の壁みたいな。壁がないバー。夜も涼しいからっていうか、あったかいつて言うレベルだから全然壁もありませんみたいな。むしろ夜風で涼みながら飲むって言うスタイル。それはまあ死ぬまでにやりたいかな。やれたらいいよね。」



(※だいたい皆さんそうなんです、マイクをオフにしてから龍一さんが非常に良いことを語り始めました。ということ以下は僕の記憶の範囲で笑)

龍:「酒なんてさあ、安く飲もうって思えばいくらでも安く飲めるんだよね。」

それはそれで楽しくて勿論いいんだけど(俺もそういうの好きだし)、でも、そうじゃなくてもみんながお金を出してでも求めてくる場所でありたいよね。」

「...いつでも気が向いた時は、バーへ行ってお酒や会話を楽しむ余裕を持っていたいっていうか。俺がそう思ってるっていうのもあるんだけど。まあそれがあるべき姿、って感じかな...。」



【映画「カクテル」より】

【インタビュー終わり】

【ambis】 福澤龍一さん

〒389-2411 飯山市豊田6796(戸狩スキー場ペガサスゲレンデ付近)

電話:050-1492-2910

# 2019 バックナンバー

「欲しい！」という方、お気軽にどうぞ。  
滑るインタビュアー、河野謙まで。

2月 「ぽっぽ動物病院」  
松川恵さん



4月 「有限会社 丸見屋商店」  
河野晃久さん



6月 「リフレイン福沢の癒し処」  
福澤美里さん



8月 「nozawa green field」  
河野健児さん



10月 「やよい農園」  
滝沢弥生さん



12月 「and sugar」  
高坂沙也香さん



## 【滑るインタビュアー】

河野 謙  
(こうのけん)

〒389-2502  
下高井郡野沢温泉村豊郷9829(横落・Fujiyoshi)  
携帯080-1294-5162 Mail: fat.da.sumo@gmail.com  
その他 [LINE](#)、[facebook](#)のMessengerもご利用ください。



## 〈追伸！〉

これは嬉しい！！ この「〇〇さんの、そこが知りたい！」が届いているあなたにプレゼントです。  
龍一さんありがとうございます！！ さあ、カッコつけて、札束握りしめて、  
仲間と「ambis」へGO！！

「ambis」ドリンク1杯 無料券 2020ゴールデンウィークまで有効！